

## 第15回 葛飾区子ども・子育て会議

### 議事録

日時：平成28年3月16日（水）午後2時～午後4時

場所：ウィメンズパル（男女平等推進センター）多目的ホール

#### 【出席委員21人】

村井会長、加藤副会長、阿部（恵）委員、浅川委員、浅野委員、阿部（久）委員、井上委員、上田委員、浦岡委員、黒沢委員、佐野委員、篠原委員、鈴木委員、田牧委員、星委員、町山委員、山口委員、山崎委員、谷本委員、廣瀬委員、三浦委員

#### 【欠席委員4人】

小林委員、高野委員、福島委員、森田委員

#### 【事務局】

子育て支援部長、育成課長、子育て支援課長、保育管理課長、子ども家庭支援課長、他 担当職員

### 次第

#### 議事

1 開会

2 議題

- (1) 「葛飾区子ども・子育て支援事業計画」掲載事業に係る平成28年度葛飾区予算案について（資料1）
- (2) 新規開設予定施設について（資料2）
- (3) 第15回葛飾区世論調査について（資料3）
- (4) 平成28年度「葛飾区子ども・子育て会議」の開催について（資料4）
- (5) その他

#### 【配付資料】

資料1-1 平成28年度葛飾区予算案概要

資料1-2 その他新規実施事業

資料2-1 平成28年度開設予定施設

資料2-2 子ども・子育て支援事業計画における保育利用に係る量の見込みと確保方策

資料3 第15回葛飾区世論調査報告書

参考 育児支援ガイドブック2016年度版

#### 【議事内容】

##### 会長

- 傍聴人がいるため、注意事項を伝達。
- 区のHPやFacebook掲載等のため、職員が記録撮影する旨伝達。

##### 事務局

- 出欠状況について報告。定足数に達しているため、会議が成立している旨伝達。

### 議題（1）「葛飾区子ども・子育て支援事業計画」掲載事業に係る平成28年度葛飾区予算概要案について

---

##### 会長

- 議題（1）について、事務局より説明をお願いする。

##### 事務局

- 資料1-1「平成28年度葛飾区予算案概要」について説明。
- 2月8日に平成28年予算のプレス発表があった。葛飾区子ども・子育て支援事業計画」関連事業から一部抜粋し、紹介する。
- 「妊婦歯科健康診査」、「児童発達支援センターの整備支援」、「保育所等訪問支援事業」を紹介。
- 「保育所の設置」について、新規開設予定園である「(仮称)お花茶屋一丁目保育園」、「(仮称)東新小岩三丁目保育園」、「(仮称)西新小岩三丁目保育園」、「キャンディパーク2号分園」を紹介。
- 「保育所の建替え」について、老朽化により「葛飾学園」、「日の出保育園」、「砂原保育園」の建替えを引き続き行っていく旨紹介。
- 「子育て支援施設の整備方針」に基づく施設整備について紹介。「新小岩保育園」、「本田保育園」、「亀が岡保育園」、「小菅保育園」、「南鎌倉保育園」の施設更新を行う。更新にあたり、「新小岩保育園」、「本田保育園」、「亀が岡保育園」は、民間事業者へ土地を貸与して、民営施設として整備を進めていく。
- 「通年型預かり保育の実施」、「多子世帯に対する経済的負担軽減の充実」について紹介。
- 「子育てひろばの設置」について紹介。「葛飾学園」、「日の出保育園」建て替えに伴い整備支援する。
- 「一時保育の設置」について紹介。「(仮称)東新小岩三丁目保育園」、「キャンディパーク保育園2号(本園)」、「葛飾学園」、「日の出保育園」、「砂原保育園」内に設置を進めていく。
- 「出産・子育て応援事業」について紹介。
- 「学童保育クラブの設置」について紹介。堀切小学校内に「(仮称)堀切小学校内学童保育クラブ」の整備を進める。これにより、区内49の小学校のうち30校で校内学童が実施されることとなる。
- 「放課後子ども総合プランの推進」について紹介。28年度は、学校内または近隣に学童保育クラブがある「北野小学校」、「木根川小学校」、「柴原小学校」、「南綾瀬小学校」の4校で試行実施。
- 「学校支援総合対策事業(発達障害の可能性のある子どもに対する重層的な支援体制の充実事業)」について紹介。
- 資料1-2「その他新規実施事業」について説明。葛飾区予算案概要には記載されていないが、「葛飾区子ども・子育て支援事業計画」に掲載している事業で、主な重点実施事業を紹介する。
- 「子育て支援情報の適切な提供(子育て応援情報発信の充実)」について紹介。子育て世代を中心に、アプリによる子育て支援関係の情報提供について、高い関心がある。そこで、区が作成する情報発信ツールを使って子育て応援アプリを構築し、妊娠期から就学期にわたるまで、妊産婦・乳幼児の状況に応じた切れ目ない支援ができるよう情報提供を行うもの。
- 「保育士の確保に向けた総合的な取組(保育従事職員宿舎借上支援事業)」について紹介。保育従事職員の人材確保及び離職防止を図ることを目的に、区内で保育施設を運営する事業者に対し、保育従事職員用の宿舎の借上げを実施するため、費用の一部の補助を行うもの。

## 会長

- 事務局の説明に対してご意見を願います。

## 委員

- 「出産・子育て応援事業」について。子育て応援券とは具体的にどのようなものか。

## 事務局

- 平成27年度補正予算で導入した事業。葛飾区民で当該年度に出産した家庭に対し、1万円分の商品券(子育て用品に限定して利用可)を配布するもの。3~4か月健診対象者が配布対象となり、申請は不要。年間3,600~3,800人に配布している。

## 委員

- 「子育て支援情報の適切な提供(子育て応援情報発信の充実)」について。子育て応援アプリとは、どのようなものをイメージしたらよいか。

## 事務局

- 子育て支援に限らず、葛飾区全体で区民に情報発信する仕組みを検討しており、その中の一部として子育て情報の配信をしていくものを想定している。現在構想を練っている段階であるため、具体的には今後情報提供させていただきたい。

## 委員

- 「放課後子ども総合プランの推進」について。学童保育クラブとわくわくチャレンジ広場が一体化していくと、わくわくチャレンジ広場のリーダー等スタッフの処遇はどのように扱われるか。

事務局

- 放課後子ども総合プランは国も推進しているもの。本区の特徴として、地域の方に見守りを願ってきただけの経緯がある。処遇については教育委員会で検討していくこととなるが、今の形をベースに役割分担をするため、当面は現状のままとなる予定。

委員

- 「一時保育の設置」について。リフレッシュのため一時保育を利用したくても、予約がなかなか取れない現状があると子育て中の区民から切実な声が上がっている。保育園等に入園できず、待機児童状態にある家庭の子が一時保育を利用せざるを得ないためにそのような混雑が生じていると聞いたことがあるが、区としてはいかがか。

事務局

- 待機児童状態にある家庭の子の利用もあると思われるが、本来は子育て中にある親のリフレッシュのための制度であるため、区としてもまずは本来の目的で利用していただきたい。今年度は五か所の整備を進めるが、待機児童の有無に関わらず一定のニーズが見込まれるため整備を進めていくものである。待機児童の解消とは別にサービスの拡充を図りたい。

## 議題（２）新規開設予定施設について

---

会長

- 議題（２）について、事務局より説明をお願いする。

事務局

- 資料２－１「平成２８年度開設予定施設」について説明。前回の第１４回子ども・子育て会議以降に新たに利用定員を設定する施設についてご意見をうかがいたい。
- 小規模保育事業所「新小岩さくら保育園」について説明。
- 学童保育クラブ「(仮称)花の木小第二学童保育クラブ新設」について説明。昨年１０月に花の木小学童保育クラブで火災が発生した。幸い児童等にけが等無かったが、施設については老朽化もしていることから、新たに受け入れ規模を増加し、開設することとなった。
- 資料２－２「子ども・子育て支援事業計画における保育利用に係る量の見込みと確保方策」について説明。前回の子ども・子育て会議および議題２冒頭で説明した保育施設の整備等により、区全体および整備等を行った地域の量の確保状況についての資料となっている。
- 区全体として、保育の必要量は合計１０，５９４人。平成２９年度まで整備を行うことで、保育定員を合計１１，１１３人確保することとしている。
- 平成２８年４月１日の定員見込みとして、２号で５，９９８人、３号で４，４１０人、合計して１０，４０８人。計画値に対する保育定員の過不足は、２号であと１１人、３号であと６９４人。特に０～２歳の受け入れを確保していく必要がある。
- 葛飾区を４つに分けた整備状況について。計画値と比較すると、東部地域は、前回の会議で報告した数値と変わりがなく、また、現状が計画値に達している。西部地域では、２号定員であと３６人、３号定員であと２６２人、合計してあと２９８人不足。南部地域では、２号定員で６４人、３号定員で３６５人、合計してあと４２９人不足。北部地域では、３号定員のみ１０５人不足。

会長

- 事務局の説明に対してご意見ををお願いする。

委員

- 待機児童問題が深刻化している。資料２－２を見ると、計画に比べて地域型保育事業数（小規模保育・保育ママ等）が伸びていない。区としても、例えば小規模保育事業を後押しするために内装改修費や賃借料補助等していると思うが、こうした補助内容の説明会を実施して設置増加を促すとか、地域に根付いている事業者に協力を促すためにバックアップを強化する等の取り組みの必要性を感じる。

会長

- 昨年度、一生懸命計画を立てて解消に取り組んだが、残念ながら十分な結果が出ず、実際に困っている区民は依然として多い。行政側にももう少し頑張ってもらいたいし、委員としても頑張れることはないか模索していきたい。
- 幼稚園等の運営団体側として感じる現状を伺いたい。

#### 委員

- 幼稚園としても、両親が就労している世帯の増加により、そういった家庭へのサポートを強化したい。たとえば預かり保育は全ての私立幼稚園が実施しており、区からも、預かり保育の予算を大きくしてもらっている。幼稚園では短時間労働の親が多く、預かり保育は年間数千人の利用がある。長期休暇期間も可能な限り開所し、就労に支障が出ないように努める方針で各園一致団結して動いている。
- 学童では、対象学年の上限を小学校6年生までに拡大したり、新1年生の申請も増えてきたりと希望者が増えている。学童の枠も増やしてはいるが、待機児童が発生している。新設するのであればある程度の規模のものを作る必要があるが、学校によっては敷地も空き教室もなく、なかなか難しい状況。
- 0～5歳時の保育を利用する割合は5割に近づいている。今は若干の待機児でも、これから増えるのではないかと。先を見据えて今から対応していく必要がある。

#### 会長

- 地域型保育事業数が伸び悩んでいることについて、区としての実情を伺いたい。

#### 事務局

- 地域型保育事業は、0～2歳時の人口が増えている中で有効な手段。この枠をどう増やしていくかは区としても課題。小規模保育は駅周辺で設置を検討していく方針だが、宅建関係者に協力を依頼してもなかなか適当な物件が見つからないことや、耐震関係の問題、証明書類の提示ができないこと等の問題がある。事業者からは、事業の先行きが不明瞭ということもあり、取り組むのが難しかったという意見も出ている。今年度開設した小規模保育事業所を見ると、保育所開設のために設立されたNPO法人で動き易かったのではないかと感じる。今後は内装改修費や賃借料補助についてアピールしながら進めていきたい。
- 保育ママについては、認可していくにあたりハードルがあったが解消されつつある。28年度以降、希望を募りつつ整備を進めたい。

#### 会長

- NPO法人が動き易いというのはどういうことか。

#### 事務局

- 保育を目的に設立されているとか、規模が小さいため意思決定が速いというのが強み。適当な物件が見つかったとしても、意思決定に時間がかかると流れてしまうことがある。また、資金構成が絞られていることも意思決定が速い理由。そういった意味で、保育所開設のために設立されたNPO法人が動き易いのではないかと発言した。

#### 会長

- 既存の社会福祉法人や幼稚園等、精一杯頑張ってもらっている。これ以上無理をさせると保育の質が心配。委員の一人としての意見だが、区内で新しく保育事業に参入する団体・有志がいれば協力してもらいたく、そういった理由で言葉の意味を確認した。他の委員の意見も伺いたい。

#### 委員

- 現在、自分の子どもが小学1年生、幼稚園年少組、無所属の0歳3か月という。これまでの話を、まさに自分が子どもを保育園に入園させたくて当たった壁と思って聞いていた。当時、区役所に行ったところ親切に相談に乗ってもらえた。しかし、専業主婦で休職中であることを確認され、「点数ははかなり低くなり、保育園はフルタイムで就労している子が優先され受け入れは難しい。下の子が大きくなると難しいのでは」と言われた。「日本死ね」というブログが話題になっているが、乱暴な言い方だが似たような気持ち。ただ、待機児童についてこれだけの委員が考えて取り組んでいることもわかった。
- 区役所四階に保育アドバイザーを配置したと聞いた。ニーズはあったのか。

#### 事務局

- 保育アドバイザーは1件の相談時間が長いいため予約制で実施している。ニーズは多く、特に入園

相談時期には多数相談がある。点数で入所可否を決めなくてはいけないことや相談を受けてもすぐに解決まで導くことができない問題があるのは心苦しい。供給が需要に追い付くよう拡大をしていく。入れるところに入るのではなく、選んで利用いただけるような時代になるよう努めたい。

#### 委員

- 地域型保育事業を充実させたい。自身も子どもを保育ママに預けているが、家庭的な雰囲気の良い。保育ママ同士も団体会交流を図り活動しているようだ。そうした保育ママたちと保育ママを新たに始めたい希望者をマッチングし、実践形式で研修を行う等といったことができないか。
- 高齢者施設と保育施設を同じ敷地内で運営し、交流を図れるようにしたらどうか。

#### 事務局

- 保育ママは現在25名程ほど。家庭的な雰囲気です少数を対象としているのが特徴で、好評いただいている。区と保育ママ同士で交流し、意見もいただいている。保育ママを新規募集するには新しくできた認可基準の課題がある。自園調理等、基準上整えなくてはいけない点が多く、現在取り掛かっているところ。土壌を整えて新規募集を図りたい。
- 高齢者施設と保育所の併設は、現在3箇所ある。区でも整備を進めたく、高齢者施設の新規開設時に保育所併設を提案しているが、高齢者のケアをする職員と乳幼児のケアをする職員の必要資格が違う等、職員環境を整えにくい等の問題もある。

#### 会長

- 子育て支援の問題は、子育て関係者や子の親だけで取り組むのではなく、社会全体で取り組んでいかななくてはならない。

#### 委員

- 子ども・子育て会議の原点に立ち返りたい。区内各地でも多様な地域性がある中で、同じ法律で一概に縛ることはできない。地域性を重視すべきであり、そのために子ども・子育て会議が生まれたと考えている。この会議で、今現在困っている区民の問題をどうやって解消するか、また、将来の子育て支援をどうするかを議論していきたい。
- 葛飾区だからこそできるという案を皆で出してほしい。区の提案を単に受け入れるだけでなく、議論を重ね、よりよい葛飾をつくるためにご協力いただきたい。
- 入園申込者数は今年も去年と同程度と聞いた。28年度の待機児童数は解消に向かっているだろうか。

#### 事務局

- 入園申込者数は去年と同程度だが若干減っている。28年度の待機児童数はこれから集計に入るところ。

#### 委員

- 新小岩に住んでいた区民の話。今年四月から仕事に復帰するため保育所に申し込んだが、近場の保育園は入園が難しそうと、遠方だが細田にある保育園に申込み、入園が決まった。そのことがきっかけで保育園の近くに引っ越すこととしたとのこと。4月から仕事に復帰しなくてはならない中でそのような選択肢を選ばざるを得なかったのは厳しい状況だっただろうと思う。区だけの問題でなく、国の施策の問題でもある。
- 区役所移転に伴い、区役所内に大きな保育所ができないかと思っている。
- 新事業で送迎ステーションは開始するのだろうか。

#### 事務局

- 区として実施すべく送迎ステーションの研究をしてきたが、今現在、事業検討は休止状態にある。3～5歳児枠が充足してきたことや、0～2歳児の送迎は課題が多いことが理由。危険防止のためには送迎車の設備や添乗員体制等の課題を多数整えなくてはならないが、それならば、小規模保育事業や保育ママの整備を早急に進めた方が良いのではないかとということで、優先して行ってきた。
- 現在の0～2歳児も年齢があがるにつれ、3歳以降の定員も調整が必要になる。全体を見ながら整備を進めていく。

#### 委員

- 保育士資格を所持しているが子育て等で休職している人材を活用すべき。保育の現場は就労時間が長く、一度休職すると復帰に勇気がいる。葛飾区で保育士の人材を求めている旨もっとアピール

ルすべき。また、場所が限られていて限界もあると思うが、区内企業内に保育所を設置する場合に補助をするとか、遠方の保育園になった場合ファミリー・サポート・センター利用料を減額する等どうだろうか。

- 入園できなかった世帯のフォローをしていかななくてはいけない。入園できないことが決まった場合に、ファミリー・サポート・センターやベビーシッター等繋がることのできる体制を整えてほしい。
- 保育士等資格所有者は時給を上げてもいいだろう。公共施設の和室や公団の集会所等、利用状況見て短時間保育に使えるようにできないだろうか。

会長

- 入園枠を増やすためには、人材の問題等、課題は多い。地域で情報があれば区に伝えてほしい。区内企業がどのように女性の人材を活用していくか等も検討し、葛飾区らしさが出せたら良いと思う。区役所に任せるだけでなく、区民の代表として多様なアイデアを出して可能性を追求すべく、ご理解ご協力を願いたい。
- 次の議題に移りたい。

### 議題（3）第15回葛飾区世論調査について

---

会長

- 議題3について、事務局より説明をお願いします。

事務局

- 資料3について説明。
- 「葛飾区世論調査」は昭和45年より実施。通常は3年おきに実施している調査だが、本年度は平成25年度から平成34年度までの10年間を計画期間とした「基本計画」の中期実施計画（平成28年度～平成31年度まで）の策定年度となっているため、前回の調査が行われた平成25年度から2年目に実施している。
- この調査より、子ども・子育て分野に係る調査報告の結果、及びその結果に対する今後の方針、施策等について説明する。
- 「2. 区政への関心（1）整備・充実が必要な施設」について調査報告結果を説明。
- 保育園については引き続き整備を進め、28年度は4園新たに整備していく。この調査結果は待機児童に対する区民の切実な要望と受け止め、特に0～2歳の待機児童は、大きな課題である。より一層小規模保育事業や家庭的保育事業などの地域型保育事業の拡充も進めていくほか、既存の保育園に、定員拡充や年齢構成見直し等も検討していただく。
- 学童保育クラブについても引き続き整備を進め、28年度は1施設新たに整備していく。放課後子ども総合プランを推進し、全ての児童が一緒にプログラムに参加することができるようにしていく。
- 拠点児童館では妊娠・子育て相談窓口の設置等を行い、妊娠期から就学期まで切れ目なく相談することができる環境をつくり、サービス充実を図る。
- 「2. 区政への関心（2）区に力を入れてほしいもの」について調査報告結果を説明。
- 子育ての支援については、延長保育、子育てひろば、一時保育、及び病児・病後児保育の実施箇所を着実に増やし、全ての子育て家庭を支援できる体制を整え、平成31年度までに、葛飾区子ども・子育て支援事業計画で定めた目標値の実現を目指していく。
- 「5. IT（1）スマートフォン用アプリでほしい情報」について調査報告結果を説明。
- スマートフォンアプリについては、子育て応援アプリにより、妊産婦・乳幼児の状況に応じた切れ目ない支援のための情報を発信していけるよう構築していく。スマートフォンを所持していない区民についても、各事業が掲載されたリーフレットや育児支援ガイドブック等により、情報が行きわたるように工夫していく。
- 「7. 社会参加活動（1-1）現在参加している・参加してみたい社会的活動」について調査報告結果を説明。
- 社会的活動については、ファミリー・サポート・センター事業の積極的なPRを行い、サポート

会員の登録数を増やすことにより、どの地域においても利用しやすい環境を整える。平成31年度までに、葛飾区子ども・子育て支援事業計画の目標数である年間延べ利用人数5,691人の実現を目指す。

- 「13. 子育て（1）少子化対策で必要な施策」、「（2）子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策」について調査報告結果を説明。
- 少子化対策で必要な施策については、延長保育、一時保育の実施箇所を着実に増やすほか、私立幼稚園や認定こども園における通年型預かり保育等を実施することにより、対策をしていく。
- 子どもたちの放課後等の過ごし方に必要な施策については、学童保育クラブの整備や放課後子ども総合プランの推進等をしていくことにより、対策をしていく。

会長

- 事務局の説明に対してご意見を願います。

委員

- 資料3の43ページ「現在参加している・参加してみたい社会活動」を見ると、平成25年度に比べ数値が低下しており、地域に繋がりを持つことへの意識低下がみられる。保育所に子どもを預けて就労する世帯が増えてきている中で、地域との繋がりが失われていくと、さらに子育てが大変だという意識が増幅されていくような悪循環が生じていると思う。待機児童対策とともに、子育て支援をめぐる地域づくりに取り組んでいかななくてはいけないと感じた。
- 保育士の人材不足については、他の自治体でも同様に困っているようだ。公立保育士や公立幼稚園の試験を受けないか、と園まで説明に来るところもある。

会長

- 子育て支援に関する仕事を探している潜在的な人材がある。してみたいことと実際にやることはギャップがあるため、その橋渡しを区ができればよいのではないか。
- 葛飾区世論調査について、20代・30代の回答率が低いのは残念。協力を呼びかけ、回答率を高めてほしい。
- 次の議題に移りたい。

#### **議題（4）平成28年度「葛飾区子ども・子育て会議」の開催について**

---

会長

- 議題4について、事務局より説明をお願いします。

事務局

- 平成28年度の会議は、6月頃から来年の3月にかけて、3回程度開催予定。
- 案件としては、「子ども・子育て会議」の役割に基づき、「特定教育・保育施設」の新規設置に係る利用定員の設定に関する事項及び「地域型保育事業」の新規設置に係る利用定員の設定と認可に関する事項を審議する。また、「葛飾区子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について、平成27年度の実施状況が確定し、実施状況が判明する最初の年となる。その報告および状況に応じて子ども・子育て支援事業計画の計画値を再度検討させていただく。その他の案件がある場合には、必要に応じて臨時で開催させていただくこともあるがご了承願いたい。

会長

- 質問等なければ、本日の会議はこれで閉会とさせていただきます。長時間のご協力に感謝する。